

こうほう ショッキング

Vol,49

Kōhō shocking



はだまさつぐ
波田 正嗣さん

●プロフィール

38歳。美津島町雞知出身、在住。学生時代は球技や陸上競技で汗を流す。対馬高校卒業後、福岡県大川市の木工所で5年間修業したのち24歳で帰郷、家業を継ぐ。現在、対馬市商工会青年部美津島支部長。前回登場の伊藤さんとは野球のクラブチームや商工会・消防団など、地域の活動を通してのお知り合い。奥様との二人暮らし。

○運動が好きなようです。

中学時代はバスケットと陸上の長距離走を。中体連の駅伝大会では部長を務めました。ある日、早朝練習で陸上部の人たちが走っているのを見て「カッコいいなあ」と純粋に思っちゃったんですね。授業の1500m走で1位になったのがきっかけで陸上部顧問の先生から声をかけられ、二つ返事で入部したのがまあ、失敗だったというか(笑)。先生も熱心で厳しかったものですから、鍛えられたのも確かですが「地獄を見た」というか(苦笑)。「もう長距離はしたくない。キツくて二度と嫌だ」と思っちゃって。体を動かすのは好きなんですけど、走る楽しさは見いだせなかったんです。それで高校では野球をしました。

○地元に戻っていかがですか？

帰ってきた20代の頃は、正直言ってもう少し福岡にいたかったな、と思いましたがね。どこか遊びに行きたくても離島の不便さはありません。でも向こうに住めば経済的にも負担が大きいです。今は帰って来て良かったなあと思います。のんびり

生活できますし、昔からの友達や先輩方もいますから、楽しく過ごしています。

○商工会青年部の活動もお忙しそうですね。

美津島支部では、「いさり火まつり」と『クリスマスイベント』を開催しています。特に夏はまつりの準備に追われ、地元消防団の活動も加わると仕事がそっちのけになっちゃって、家族でケンカになることもあります(苦笑)。準備の大変さはありますが、やり終えた達成感が味わえるので、それまでの苦労もむくわれますね。どちらも地元の方が楽しみにしてくれていることが僕たちの原動力ですね。

○これからの対馬に思うことは？

若手の働き口がなく島の人口が減っている時代ですから、何かやって対馬を盛り上げたいという思いがあります。僕は『対馬とんちやん部隊』にも参加させてもらっていますが、いろんな活動で「対馬」が広く知られるようになっていけば、「対馬ブランド」が認知されて、人口増加につながればって思っています。自分たちの生まれ育った

場所ですから、どうかして対馬を盛り上げていきたいという思いです。例えば、対馬各所で開催されているお祭りを1週間にまとめて「対馬全島お祭りウィーク」みたいにしたなら、観光客にもウケるんじゃないかな、とか。島内の人も、違う地区に行く機会がなかなかないと思うので「互いを知る」イベント「対馬を知る」機会になるんじゃないでしょうか。

○気分転換の方法は？

日曜日はだいたい野球の練習に行きますが、予定のない日はしっかりと脱力します。そんなには飲めませんが、昼間にちよつとお酒を飲んで、畳の上にごろんと横になるのは気持ちいいですね(笑)。

僕は魚釣りが性に合わないんで、青年部の釣り大会を計画しても腰が重く、友達はどうにかして僕を釣り好きにしたいと画策しているようですが…どうなるでしょうね(笑)。

毎回、登場してくださった方、次の方をご紹介いただくコーナー。次回は美津島町雞知にお住まいの酒井正幸さんです。お楽しみに。